

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971200231
法人名	医療法人 聖仁会
事業所名	グループホームうらら
所在地	山梨県富士吉田市竜が丘1丁目1番26号
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 30 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6 年 2 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームうららは母体が歯科であり、歯科医師や歯科衛生士が定期的に利用者様の健康チェックなどを行っています。また、その状況から判断した内容をケアに生かし、最後まで食事をおいしく食べることを実施してきました。また、介護保険制度におけるサービス事業所として、富士吉田市や富士河口湖町では聖仁会しか実施していない、認知症対応型通所介護など、認知症支援に力を入れケアを実施してきました。計画作成担当者には、主任会を支援専門員を配置し、利用者様やご家族様にも安心していただけるようサポート体制も充実していると思います。今後も認知症支援において、法人としては地域に根ざし、一人ひとり安心して生活できる社会づくりを今後も提供していければと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームうららは、同一医療法人が運営しているデイサービスと同じ建物内にあり、グループホームは2階に設置されています。母体である歯科医院が近くにあるため、口内環境に対する定期的な健康チェックがされていました。「人生の最後まで、食事を楽しみしっかりと摂れるように」という考え方にたち、食事支援に対する取り組みが充実しています。昼食はデイサービスで作ったもの、朝・夕はグループホームで作った手作りの食事を提供していました。食材を利用者と一緒に買い出しに行ったり、その日のメニューも利用者の希望等により柔軟に変更したりして提供されていました。また同法人では、認知症対応型通所を実施しており、認知症対応に力を入れた支援が行われています。法人の方針としては、運営しているグループホーム、通所介護を中心として、地域の人たちがいつまでも安心して生活できる、地域社会づくりを目指していくことを目標としていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護保険をもとに「尊厳」「その人らしさ」を重視した理念があり、全職員が理解し、日々の支援においても心掛けている。また、新人育成における研修過程においても、法人の理念を説明し、常に継承している。	「その人らしさを尊重したケア」を基本理念として、各会議やミニカンファレンス(引継ぎ時)において、全職員で確認して共有されていました。職員は自分自身を振り返り、個々のケースの中から理念を具体的に考えることができていました。また毎日の支援の中で「笑顔」を絶やさない支援を心がけていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナも5類に移行したが、地域の実情を踏まえ、少しずつ地域への参加が多くなってきている。近くのスーパーや地域の行事などにも参加し、少しずつ機会が多くなってきている。	新型コロナウイルス感染症防止のため、地域との交流が思うようにできませんでしたが、状態が落ち着きを見せたため、昨年の10月からは近所のスーパーマーケットに買い物に出かける等の外出が行われています。また、地域の自治会長さんとの交流もできるようになっていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内での研修会や、改善委員会、また、ネットワーク拠点など地域協力体制の構築を踏まえている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスが5類に移行した内容を受け、市町村とも協議し今年度から対面での運営推進会議を2か月に1回実施している。事業所の実情やヒヤリハットの共有。地域課題を通し、関わりある地域に向けた協議を実施している	新型コロナウイルス感染症防止のため、書面による運営推進会議を行っていましたが、感染症も穏やかになってきたため、昨年8月より集合形式(対面)での会議が再開されました。現在は2か月に1回開催され、グループホームの情報提供やヒヤリハット事例についての共有等を行い、意見等を運営に活かしていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者が運営推進委員会のメンバーであり。情報交換や助言。相談、アドバイスを踏まえて連絡を取り合っている。	市町村との連携については、必要時に電話による情報交換や、市担当者に運営推進会議のメンバーとして参加していただき、情報の提供等を行っていました。また、利用者の確保を行う場合に、市町村に出向いて担当者との会議を行い、協力関係の構築に努めていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの内容を理解して、拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修会を年4回実施して、身体拘束マニュアル等の内容について学ぶ場が設けられていました。スピーチロックについての理解を深め、「ちょっと待って」等の対応も少なくして、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を法人で制定。研修会や勉強会を開き、虐待防止への学を深めている。また、虐待ではないかという事例など、協議することで実際のケアに取り込めるよう、研修委員会で協議している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が定期的に外部の研修会に参加し、利用者様の必要に応じ関係者と連絡を取れる体制をとっている。また、主任介護支援専門員がいることで、制度の理解や工夫点などを知識面での理解も多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には自宅に訪問し、重要事項を提示し書面にて十分な説明を行い、理解、納得の上で同意を得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名()	実践状況
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ過でご家族様からも、面会ができない旨での意見を合ったこと受け、必ず連絡を取り合い、玄関先での面談を昨年度から強化している。その際に、生活の様子やご家族様の意見を取り入れ業務に反映出来る工夫を実施している。	家族会が昨年8月に久しぶりに開催され、家族へグループホームの内容をお話したり、意見や要望をお聞きすることができています。また、グループホームでの面会や家族との外出・外泊もできるようになり、家族に訪問して頂く機会が増え、意向や思いについてお聞きでき、運営に反映される機会が増加しています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、全職員に対しアンケートを実施し、管理者との面談を含め、職員の意見や要望を取り入れている。業務に関しては、改善委員会や営業会議といったところで周知し、取り入れるよう実施している。	年2回(5月、12月)管理者との面接が行われていて、自己評価のチェック、職場移動の希望や意見・提案等を聞く機会を設けていました。出された意見や提案については改善委員会や職員会で検討され、職員に周知すると共に、必要に応じて改善計画に繋げていました。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の施設長面談で実績や業務への要望等を取り入れ、職員の職場環境への配慮をしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内でのOJT、各委員会、月1回のカンファレンスをし、職員の資質工場への取り組みを実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、介護支援専門員協会などへの参加の機会を設け、外部との交流や勉強への機会を届け各スタッフ個々のスキルアップを実施している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主任介護支援専門員がインテークから本人様のアセスメントを丁寧に実施し、主訴や不安への対応を検討している。また、見学や日ごろの状況を見ていただきながら、入居までの不安感を取り除く支援を実施している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの間、自宅訪問などを頻回に実施し、ご家族さんの不安やサービスへの心配な点などを丁寧に聞き取りを行い、施設内の雰囲気やサービス計画書をはじめ、ご家族さんの意見を取り入れながらケアに当たるように配慮している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームという認知症への対応に特化した利点と本人像を掛け合わせ、今必要な支援において、具体性を示し、実施した内容をフィードバックしている。また、担当ケアマネジャー様にも相談をかけ、施設への不安や難しい場合などを含め、適切な支援に結びつくように配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする同士の関係を築いている	ケアをすることではなく、家庭的な雰囲気を考え、家族との時間を常に考え実施している。特に食事に関しては、一緒に食事をしながら共においしさを共有したり、お話しする時間をきちんと取れるように配慮している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウィルスでの面談制限も少しづつ緩和し、お話しする環境も多くなってきている。また、家族会の実施などでご家族さんと対面できることで、日々の状況や一緒に支援を実施していくことの重要性などを話をしながらお互い良い方向へ支援することを実施している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策として、外部や大勢が集まるような場所への参加は極力控えている。そのため、なじみある環境が該当してしまう場合は、感染を控えている。ただ、安全性が確保できていることやご家族様、地域の行事などへの参加は少しづつ回復してきていることも踏まえ、来季からの佳愛であると考えている。	コロナ禍以前は、利用者へ面会に来てくれる方も多くいましたが、感染症防止のため、出入りが難しくなっていました。現在、利用者の家族等からお話しをお聞きし、利用者の馴染みの場所や人とのつながりの「エコマップ」の作成が進められています。出来上がると、エコマップにより、馴染みの場所・人の関係づくりが行われる予定です。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中に個々の性格や人格もある為、必ずしも共同しなければいけないという観点は持っていない。ただ、支え合う観点や、一緒に共にする時間等は大事にし、社会参加への目標年努力に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後連絡を取り合い、必要に応じた支援がそこまでできていないかと判断するが、退去後、利用者さんの写真を持って行ったり、主任介護支援専門員が、グリーフケアを実施し、ご家族さんの喪失感などへの対応は実施している。また、その際に、うつ傾向などあるご家族さんを発見した場合は包括支援センターに連絡し、調整している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主訴を聞き取り、本人さんらしさを常に忘れないようにケアに当たっている。その為にも、カンファレンスで職員間の伝達や、変わる行く本人さんの状態像を共有し、ケアに当たっている。また、困難な場合、ご家族さんにも協力していただきながら、本人にケアに当たっている	今まで、利用者一人ひとりの思いや意向について十分に把握できていないことがあったので、介護支援専門員を中心に整理し、カンファレンス等で職員間で共有していき取り組みが行われていました。普段の生活の中での関わりから思いや意向を確認するとともに、介護計画の見直しの時にも把握する仕組みがありました。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主任介護支援専門員がインテーク、アセスメント時にしっかりと生活歴に聞き取りを実施。初回では聞き取り切れなかったことや本人さんらしさを共有することで、普段の会話からみられることもある為、スタッフが会話をすることの意味も理解しながら実施している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月必ずカンファレンスを実施している。状態像の変化が著しい場合やケアの変更点がある場合は、まずはきちっと能力を把握し、ケアに当たっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心にケアの実施状況や内容を確認。毎月カンファレンスをする際に変更点があれば、各担当が報告し、計画作成担当者との協議の上、個別計画書の作成、変更を実施している。	介護計画の作成は、各担当職員が利用者の状況や家族の意見等を取り入れた計画内容を、介護支援専門員と協議して作られています。介護計画の見直しは6か月ごとに行われていますが、日常的な支援の中でも、アセスメントとモニタリングを行い、必要に応じ見直しが実施されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変更点、確認することなどは個別記録に記入している。また、必要に応じカンファレンス時に検討。また、外部や医療との相談を要する場合には、申し送りノートなども活用し情報を共有している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	70歳代の入居者様もいるため、数十年前のようなニーズに対応するだけでは対応しきれない事例も出ている。また、コロナ過にて外部との接触も阻まれてしまったため、現状無理な支援ではなく、実施できる支援(家族との外出や外泊、マッサージの導入など)を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状地域資源を発掘するような状況であっても、感染への懸念度が高いこともあり。なかなか地域さんが限られている状況もある。そのため、上記記載内容の通り、実施できる地域資源の活用を目指し支援を実施している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの理念として、今までの本人様やご家族様の関係性を大事にいただき、これまで築き上げてきたものを大事にしている。定期受診以外にも、本人様の状態の変化においては、ツールや電話、FAXなども多用し、適切に医療が受けられるように配慮している。	個々の利用者が、入居前に診療を受けていたかかりつけ医を大切にして、継続していけるような対応がとられていました。協力医療機関としては、市民病院、歯科医院があり、希望等により受診できる体制が確立しています。また、緊急時には併設するデイサービスの看護師が対応できる体制がとられていました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、併設のデイサービス看護師と法人内の看護師にその都度、専門的見地からの助言、対応、指導をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	計画作成担当者が在宅での介護支援専門員を従事していた経過から、ある程度総合病院の相談員との面識もあり。入院時や退院時や相談員を通し、利用者様の状態把握、支援に向けた内容についての話し合いを実施。退院時カンファレンスや担当者会議への参加を促している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書、重度化や終末期について事業所としての方針を説明、確認を行っている。重度化した場合は早い段階で主治医や家族に見取りまでの対応できる体制づくりを検討。地域の関わりあるチームづくりを実施している。	終末期や看取りへの対応として、グループホームの入居時に十分な説明を行い、了承を得ています。利用者や家族から看取りの希望がある場合、家族や主治医と連携する中で対応について検討し、実施に繋げていました。過去に3名の方の看取りを行い、最後まで要望に沿ったケアができたというお話を管理者からお聞きしました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修において、全職員、普通救命救急士講習を実施している。また、救急時対応マニュアルを参照し、落ち着いて対応できるように整備している。24時間看護師に連絡し指示、対応が出来るような態勢は整えてある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、日中、夜間の想定した避難訓練を実施している。また、同一法人内にて避難訓練も実施。協力体制ができています。また、運営推進委員会のメンバーには自主防災のメンバーにも参加してもらっている。	年2回、デイサービスと共に消防署にも参加していただき、法人としての避難訓練が実施されていました。デイサービスと一緒に行う事で、実際の災害時には協力体制により対応できるメリットがあるという事でした。夜間の災害を想定した訓練も実施されていて、地域の運営推進会議の皆さんにも協力をして頂く体制ができていました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴の情報から一人ひとりに合わせた言葉かけをしている。人格の尊重は理念にも合わせ、適切にできるように考え理解している。	より良い介護をしなければという思いから、プライベートの部分に踏み込みやすい部分もあるということですが、基本的には、利用者一人ひとりの人格や尊厳を尊重し、本人の意思をしっかりと確認した対応を心掛けていました。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しいとスタッフが判断することも時折見受けられるが、こちらが判断することが、利用者様の尊厳をどれほど尊重していることなのか。法人理念に合わせ、声掛けにおいては、本人の主体性を持ち聞くスタンスにて本人の決定権を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在、GH内にて全介助でなければ生活ができない利用者様もいるため、今までの生活歴やご家族様の意見を取り入れながら生活のペースには配慮している。また、楽しみを持ち、晩酌することや夜間お風呂に入ることなど、本人の希望や思いを聞き取り対応を実施している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などご本人様がおしゃれを楽しめるよう本人の好きな服装などは個々の趣向を大事にし支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物には一緒に行き、その日のある程度メニューを考えるが利用者様の意思に添い、変更をしている。また、洋風な食事が好きな利用者様が多いことを受け、高齢者施設ではあまり出ないようなメニューなども聞き入れながら実施している。利用者様から進んで食器を片付けてくれたり洗ってくれることも多いため、見守りだけは実施している。	「食」については生活の中で最も大切にしていきたいという考え方があり、人生の最後まで、食事をおいしく食べる支援が実施されています。利用者の方と一緒に食材を買いに行ったり、希望に沿ったメニューを考えて食事作りがされていました。また、お正月やクリスマス等の行事食にも対応されました。スパゲティやラーメン、ほうとう等の希望メニューの提供もしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体格や活動量、病気への配慮を含め食事内容には気を付け対応をしている。また、同法人内に管理栄養士がいるため、バランスや食事内容、病状職の必要性などは県としながら対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	同法人の歯科医師、歯科衛生士が不定期ではあるが指導があり、ここにあった口腔ケアを行って職員の指導も行い生成保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化している利用者様はオムツ交換などを実施する場面も増えてきているが、出来る限りトイレでの排泄を促す観点から、介助を要しトイレ居座っていただき用を足している。また、自立した方でも排泄パターンや排泄の仕方の違いもあることを受け、一人ひとりに対しての「排泄への支援を実施している。	利用者の方が少しずつ重度化して、オムツやリハビリパンツを使用する傾向にあります。ご自分でトイレに行く方もまだ多い状態です。介助が必要な方でも、できるだけトイレでの排泄ができるような支援を心掛け、一人ひとりの排泄の状態を把握して、自立に向けた支援に取り組んでいました。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行います。利用者様一人ひとりのチェックを必ず行っている。食事に関しても、同法人における管理栄養士指導の下、排便への促しなど薬を飲まなくても食事で排便を促せる方には食事療法での対応を実施している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2~3回程度の回数になっている。利用者の希望を読み取りながら、日中での支援だけではなく、夜間も含め、入りたいときに入れる意見を聞きながら実施している。また、若い入居者様などは浴後のお酒を楽しみにしている人もある為、その人それぞれの生活リズムや習慣を重んじ、ケアを実施している。	入浴は基本的に利用者の方が、入りたいときに入れる状態になっています。昼間の時間帯は比較的介助の必要な方に入って頂き、夜間帯の入浴は、自由に入れる体制がとられていました。入浴後に飲酒を楽しみにしている方もいて、家庭から継続した生活の支援が行われていました。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	重度化の利用者様もいることを受け、個々の休みたいタイミングや自宅での生活主観を取り入れ実施している。出来る限り支援として日中活動性ある生活を重んじているが、お昼休みなど利用者様の要望や希望に応じ、休息等も取り入れながら対応している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関し、個々のケースにおける内容をご家族様や医師と連携を取り内容の把握に努めて。また、変化がある場合などは早期に対応できるよう、医師との連携ツールを使用し、早期化いける出来るよう医師、薬剤師と連携し対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルスが5類に移行になったことを受け、少しづつではあるが外部との連携や外出への支援を実施している。その際に、個々の利用者様の要望や希望に応じ趣味や趣向に合わせて外出を楽しんでいただく支援を実施している。生活歴から好きだったことなどを生かし、支援を実施している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様との会話の中から、実施したいことや出かけたこと。やりたいことなど、意見を聞きながら、正確な判断のもと希望を取り入れ外出への支援を実施している。地域支援にて、なじみあるお店などご家族さんが知っているお店や通い慣れた店については、協力を頂きながら、通うことをしている。	買い物の曜日が火、木、土曜日と決まっています。食材等を一緒に買いながらの外出が行われています。昨年はコロナ対応もあり、あまり人混みのない場所へ、1時間程かけてドライブを兼ねたお花見を実施しました。今後は、利用者の外出の希望や要望を取り入れた外出や外食、馴染みの場所等への訪問を実施する機会を増やしていく計画が作られています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に管理としては、職員(管理者)が管理をしているが、買い物等個々の能力勘案を実施しながらお支払いなどを実施していただいている。近年、電子化が進んでいることもあって、大きなスーパーなどでの支払いは難しい状況が多くなっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などについては特段制限を設けるようなことはなく、こちらが必要であればかけるための支援を実施し、ご家族様からも、近況を確認したりしたい旨もある為、やり取りをお願いしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンフロアである為、台所から居間などつながっていることが特徴でもある。そのため、同線の確保はしっかりし、転倒など内容家具などにも掴まれるように対応をしている。また、施設内でも日向ぼっこなどができるようベランダへのスペースを多く設け、富士山を眺めながら過ごし時間などは利用者間にも好評を得ている。	共用空間は広いワンフロアであり、利用者にとっては視界も良く、使いやすい空間となっています。また天気の良い日はベランダで景色を見ながらゆったりと過ごすことができ、量のスペースもあり、落ち着ける場所となりました。グループホームの場所が二階となっているため、外に出ることについてはどうしても制限される傾向があります。	広いワンフロアがあり、ゆったりとした空間での生活ができていましたが、「居心地の良い生活空間」は建物の外へ自由に出入りすることも大切な要素となります。2階だけの空間制限でなく、1階のデイサービスとの交流や、気軽に戸外へ行ける体制についても、今以上の対応を期待致します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が多いため、目隠しができる空間等の配慮は難しい点ではあるが、お部屋を利用させていただいたり、個々の生活状況に合わせて過ごす場所などを利用者様に判断していただいている。特にソファなど今の部分は皆様でお話する場面でもあり、くつろげるスペースとなっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に必ず使い慣れたもの(家具や食器、大事にしていたもの)などを持ってきていただくように実施している。利用者様においては、個々の内容にもよるが反対になれたものを見ることで、混乱を招くケースもある為、相談の受け、本人が安心して生活できる工夫への取り組みを実施している。	利用者の居室には、それぞれの思い通り、壁には写真や創作物が飾られていたり、家で使っていた家具等を持ち込んでいる方もいました。また、いろいろな物を居室に置くことにより、落ち着かず逆に興奮してしまう方もいて、利用者一人ひとりの状況に応じた対応が図られていました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室に関し全面バリアフリーであり、壁には手すりや設置している。また、整理整頓等安全面への配慮を心掛けている			